

2017→2018 石川県糖尿病協会

石川県糖尿病協会

会長 早戸 武志



糖尿病協会の1年のふりかえり

①患者と、医師や医療スタッフの協力で、取り組みが進みました。

②行政の協力で、協会だよりの作成や活動量を増やすことができました。

- ・総会や石川ウォークラリー大会の参加者が増えました
- ・輪島での県民フォーラムの開催で能登北部地域の患者が集まりました
- ・「みのり会」は結成50周年、会の取り組みや経験がまとめられました
- ・行政の協力で、協会だよりや宣伝物の発行を増やし活動を広げました
- ・会の役員の世代交代を一緒に考えてもらいました
- ・石川県糖尿協会会長が新聞で紹介されました
- ・会員は 688人 → 717人へ
- ・大学病院でも会の準備がはじまりました

③会員の増強、新しい友の会患者会を作ることは端緒的です

1000人の会員をめざして

石川県協会3カ年計画（平成29年6月⇒平成32年6月、2020年）

石川県糖尿病協会の結成は1971年。

今年、平成30年（2018年）第48回総会、6月に予定。

平成32年（2020年）第50回総会までの3カ年計画。

そして2021年石川県協会50周年の節目

糖尿病協会の現在

- | | | | |
|-------------|------|--------|------|
| ①.会員数 | 688人 | →1000人 | 717人 |
| ②.友の会患者会の状況 | 20 | →40 | 1つ準備 |

友の会・患者会の役割

1. 会の行事を通して交流、学び考える場になる
2. 一緒に学び、考える場を作っていることが大事
3. 「さかえ」誌を利用して、新しい情報を知る機会をつくっています

石川県協会の取り組み

(方法)

- ①現在の「会」で、会員を増やして活性化することを呼びかけます。
- ②少人数・低迷しているところを大きくする相談、協力を取り組みます。
- ③新たな施設や地域で「会」をつくることを働きかけていきます。
- ④各行事への参加を積極的に進め、糖尿病協会や「さかえ」誌を普及していきます。友の会患者会どうしの交流を進めていきます。

(そのために)

- 役員、先生・医療スタッフの協力、参加が必要
- 役員の子世代交代の相談、協力もお願いする
- 役所や会社、関係団体との協力

が大事と考えています

石川県協会の強化のために

1. 役員で県内の基幹病院への協力をお願いしていきます。
2. 各協議会との積極的な連携、強化を進めます。
3. 県（行政）、医師会、関係者とよく相談し、糖尿病協会の活性化の協力を要請していきます。
4. 糖尿病週間等の各行事の参加者の増加を追求し、定着させていきます。